

羅針盤

介護福祉士

らしんばん

No.87

2022年11月発行
一般社団法人岡山県介護福祉士会
〒700-0807
岡山市北区南方2丁目13-1
岡山県総合福祉・ボランティア・
NPO会館「きらめきプラザ」7階
TEL: 086-222-3125
URL: <http://www.okayama-kaigo.jp>
印刷編集協力: 友野印刷



えがお

社会福祉法人恵神会【小規模多機能型居宅介護 高瀬】では、コロナ禍の夏でも盛大に盛り上がる七夕会・かき氷大会・納涼花火鑑賞会などを実施し、利用者様は楽しい日々を職員と共に過ごしました。「今年の夏も、最高じゃった!!」「ええ夏の思い出になりました」と笑顔で喜ばれておられました。これからも利用者様と一緒に楽しい思い出を作っていきたいと思ひます。

小規模多機能型居宅介護 高瀬 古山 喬成

研修報告



介護福祉士ファーストステップ研修

介護福祉士ファーストステップ研修は、小規模チームリーダーを養成することを目的としています。

一人ひとりの利用者へ個別に向き合い、生活支援ができる介護環境で、介護提供の創意工夫が生まれるような介護職チームを育成するためには、小規模な介護職チームのリーダーの役割が重要であることから、平成18年度からの厚生労働省の試行事業を経て、平成21年度以降実施されています。岡山県介護福祉士会では、現在2年に1度開催しています。

今期の開催では感染症対策を十分に行い実施されました。15日間200時間の長期研修に加えて、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、約半年間の延期にも見舞われつつ終了を迎えたので報告します。

「尊厳を支えるケア」が実践でき、チームリーダーや指導係等への役割任用の有無に関わらず、できるだけ多くの介護福祉士が受講し、資格取得ルートの違い、業種や各職場でのケア理念や実務環境の違いによる経験・能力の違いを補完し、ケア理念、職業倫理、自己研鑽への共通の能力基盤を確立する。また個々が、将来の展望をもつことで早期離職を防げるよう、自分自身のケアを振り返り、それを客観視し、言語・文章化する機会を提供するとともに、介護の仕事の深み、楽しさを改めて見つめなおして、考える機会を提供できるようにと、事例や実体験を軸とした演習中心のものとして組み立てられています。

さらに、研修を進めていくなかで、事前・事後研修レポートを求められるなど、参加型のハードな研修内容ではありますが、確実に自分自身の力を高められる基本研修に続くスキルアップの研修となります。

認定介護福祉士研修を目指す方は、ぜひ受講されることをおすすめします。

受講生の声

- 業務内容やケアに関することを多角的に見ることができるようになったと感じています。
- ケアに関し疑問点や課題に気づくことができ、改善・解決に向かう力が付いたように思います。
- 気づくことの大切さを学べ、これまで利用者が思っていることをわかっているつもりでいたが、今後どのように関わっていくべきか改めて考えることができた。
- 業務中心から利用者中心の個別ケアへ、自分自身の考え方の変化を感じました。
- 多職種との連携やチームケアの重要性を学びなおし、原点回帰ができたような気がします。
- グループ演習が多く、メンバーの意見を否定せず聞く姿勢の大切さや同意・合意の重要性を学べた。
- 仲間からも学べて視野が広がり、多視点での気づきが大切だと考えるよい機会となった。
- 病院の介護福祉士としての立ち位置に気づき、自職場について考えるよいきっかけになった。
- リーダーとして悩んでいた上、ほんとに課題も多く大変ではあったが、悩みながらも伴走型で課題を解決できるような自信にも繋がった。

(美作地区：広報・神田)

介護福祉士資格取得



基本研修

実務経験 ▶ 1年目～

専門職としての第一歩を踏み出すための研修です。利用者の生活全般について、課題ニーズを発見し、その人らしい生活を送るための援助方法を学びます。



ファーストステップ研修

受講資格 ▶ 2～3年程度の実務経験

カリキュラム内容 ▶ 200時間（15日間）の講義を受講

チームリーダー・指導者など、介護業務の中心的役割を担える知識・技術・判断力を学びます。



介護福祉士の
上位
資格

認定介護福祉士

受講資格 ▶ 5年以上の実務経験

カリキュラム内容 ▶ 600時間（Ⅰ類・Ⅱ類）の講義を受講

介護福祉士の資格取得後の、さらなるキャリアアップの為の仕組みです。幅広く、利用者に寄り添う専門職としての考えかたや、知識、技術を学びます。



介護福祉士災害支援ボランティア研修

2022年7月7日（木）、きらめきプラザにて介護福祉士災害支援ボランティア研修が開催されました。第1部では、岡山市危機管理室の近藤真吾先生による「災害発生時における行政との関わり～岡山市における防災計画～」でした。第2部では、岡山県介護福祉士会災害支援ボランティアチームによる「災害発生時における介護福祉士の役割」でした。



第1部では、近年発生した西日本豪雨や東日本大震災などの振り返りや介護分野に関わる防災施策についての話がありました。グループワークでは、自分が川沿いの集落に住む高齢者を想定して避難指示が出たときに、すぐ避難するかしないかを話し合い、自分たちの意見を出し合っていました。また、ハザードマップを見てどこにどんな災害のリスクがあるのかを知ることができました。

第2部では、災害ボランティアに行くときの心構えや実際に災害ボランティアに参加されたときの体験談などを聞きました。グループワークでは、避難所に高齢者の方や身体障害者の方がいることを想定してどのようなところに注意が必要か、支援するにあたって配慮するところはどこかなどを話し合いました。

災害はいつどこで発生するか分かりません。日頃からハザードマップや防災グッズを確認して災害が起きて速やかに動けるように備えたいです。また、防災意識は災害発生直後は持っていたとしても次第に薄れていきます。定期的に防災について考える時間を作り、防災意識を高めていきたいと思います。

(総社・高梁地区：広報・森岡)

受講生の声

- 自分自身の災害意識が足りていないのでまずは自分の防災意識をしっかりと向上していきたいです。
- ハザードマップを見て自分の働いている施設が何に備えたら良いか分かりました。

介護技術 基本講習会

開催日：2022年7月25日（月）

講師：岡山県介護福祉士会技術指導委員 加納 忠紘 氏

参加者：6名（知的障害通所・GH・介護付有料老人ホーム・デイサービス等より参加）

*換気・消毒・フェイスガードの配布など感染症対策を実施して開催

介護の基本

1. 人権尊重 2. プライバシー保護 3. 自立支援・自己決定 4. 安全・安楽

を踏まえた上で講義と演習を実施

研修内容

●移乗・移動

①ボディメカニクス ②側臥位 ③端座位 ④車いす ⑤車いす移乗

●衣類の着脱

参加しての感想・今後希望すること

- ・今の職場では技術をする機会が少ないので勉強になった。食事など他の技術も学びたい。
- ・基本的な技術を行うことが少なくなっていたので学ぶことができ、意義があった。シリーズとして技術の研修を行って欲しい。研修案内に今回は何の項目を行うかなど詳しい内容が分かると参加しやすい。
- ・参加して楽しかった。実際に日々行っていることだが自己流であることに気付け、基本に立ち返る必要性を思い出した。
- ・ポジショニングなど基本技術は繰り返し行って欲しい。
- ・困難事例の対処について他の施設ではどのようにしているかなどの検討会・勉強会を実施して欲しい。他施設から学び上手いっている事例を取り入れたい。
- ・基本に戻れて良かった。洗身介助等の介護技術の研修も行って欲しい。



(倉敷地区：広報・田中)

介護福祉士実習指導者講習会

2022年8月23日（火）・24日（水）・30日（火）・31日（水）の4日間、きらめきプラザにて介護福祉士実習指導者講習会が開催されました。

コロナウイルスの流行に伴い、席の間隔をとり、換気も充分行い、演習の際はフェイスシールドを着用するなど感染対策をしっかりと行った上で開催されました。

この講習を受講することにより、介護福祉士を目指す実習生に「介護実習Ⅱ」を指導することが可能になります。

講習会ではスーパービジョンの意義と活用及び学生理解、実習指導の方法と展開、実習指導における課題への対応、介護の基本、介護過程の理論と指導方法といったカリキュラムを講義と演習を交えて学習しました。

介護技術にもそれぞれ根拠があることを再認識することができ、自分自身が日々行っている介護業務を見返す良い機会にもなりました。

コロナウイルスの流行により、普段とは違った形で実習を行っている施設などもあり、研修に参加された方々の間で実習の話だけではなく、施設の感染対策についてなどの情報交換をすることもできました。

これからは、実習の指導者になります。介護の魅力についても伝えていきたいと思います。実習生のお手本となり、「この人の様になりたい。」「この人と一緒に働きたい。」と思ってもらえるような介護福祉士を目指し、日々の業務や実習指導に努めていきます。

（真庭地区：広報・山室）





座談会

ネットワークを広げ

2022年7月14日（木）にきらめきプラザにて、自分の仕事の価値を語れる座談会となるよう倫理委員会が企画し開催されました。新人介護福祉士の悩み・相談・疑問などを先輩方の経験談をもとに意見交換がなされたので、新人介護職4名と先輩介護職6名の参加者了承の下、ほんの一部ではありますが、座談会の様子を報告させていただきます。

司会：4月から就職されて現在、伝えたいことを言う機会がなかったり、疑問に思っているけど忙しくて言えなかったりするなかで、悩みの整理や嬉しかったことを共有できるように、職場以外の横の繋がりを広げてもらい介護観を語れる場に、色々質問できる有意義な時間になれば良いかなど企画をさせていただきました。

私自身1年目の時は、作業療法士に色々教えてもらい、落ち着いた環境のなか利用者本位で物事を考えることを学べた。皆さんの大事にしている介護観などを教えて下さい。

先輩A：なんだろう、学生さんには自分の新人の頃にできなかったことを悔いていることを訴えている。30年以上前は、介護福祉士が浸透していないなか老人ホームも明るいイメージではなく重度の方が多くって、なんか違うと思っていた。おかしいなんか違うと思っていることを同期のみんなと話し合っていた。学生の間にもっと学んでおけば良かったと今でも思う。

その頃に上手くいかない時、先輩からやり方がまずいなら、見方を変えると考え方もやり方も変わってくるって言われたのも、今になってみると凄くよく理解ができてきた。

利用者のおばあさんから努力が足りないと言われたこともあったりして、色々教わるうちに繋がってきて腑に落ちるようになってきた。仕事だからと割り切る人もいるけど、人を大事にする介護職は、自分を含めた周りのみんなを大切に考える考え方を大事にしている。

先輩B：研修や本を読んでいて、介護職は感情労働に留まらない気づかい労働や他のことをしながらの

ながら労働が多いと知った。大規模施設での流れ作業的な介護の方がスムーズで良いと言われる方も居られますが、自分はグループホームでしか働いたことがないので、割と流れる時間がゆっくりなことを大切にしている。利用者さんとコミュニケーションがとれる時間があるので会話のキャッチボールを大切に、ながら労働でもドッチボールに注意して、言葉足らずにならないように配慮するのを大事にしています。

司会：20数年前と歴史で比べると利用者中心という所で変わってきてはいますが、ただ現実はどうなですか？現場に1年目に入ってみて、これは違うってありましたか？

新人A：利用者さんの意思を尊重するのは大事なことで、ご飯をあまり食べられてない方が食べたくないと言われると、下げないといけなくなる。おいしそうですねと、もうちょっとひと言声を掛けられるのではないのか、そうすると食べて下さった方も居られた。尊重をし過ぎなのか、忙しいからか、利用者さんの体調によるのか、私には判断がつかないです。

新人B：食べない時は、ちゃんと理由を聞いてお腹いっぱいだったら、でも水分はしっかり摂ってとお願いして、何回か伺ってみてどうしてもなら下げちゃいます。

新人C：ベテランさんは凄く20人位を見て回っていて声掛けなど配慮しているけど、私はまだまだ難しくって大変で全然ついていけないです。

介友を増やそう😊



司会：食事介助は意外と難しいですよね、危険もあるし尊厳どうなのかって、声掛けに工夫も必要です。食べないと今度は栄養の偏りも出るし体調にも影響するでしょう。

先輩C：以前は施設でしたが現在は教員をさせてもらって感じるのは、学生同士の実技と現場との違いは、声を掛けても口を開けて下さる方って殆どいらっしやなくて、本当どうしたらいいですか？となります。どの介助よりも食事介助は、一対一で関わる時間も長く、コミュニケーション能力や生活歴を含めた他者理解も声の掛け方も難しい上に、最初にさせてもらう介助でもあるので、気づきも多く学びになるけど教えるのも難しいのも実感しています。現場の頃は、食べてもらうことを重要視してたし、焦らなくても良かったと反省もしている。

皆さんの話を聞いて改めて勉強になった。やっぱり要らない理由が重要だと考えます。

先輩A：要らない時や食べれない時には、補食等を提供できているのか？その先をどうすると食べても

らえるのか工夫することが大事です。生活のなかで楽しみのひとつでもあると思うので、季節柄や時間帯なのか、或いは介助方法やポジショニング等も考えられる。ラーメンの日に暖簾を準備して、雰囲気や匂いを楽しんでもらうのも面白いかもしれません。

司会：生活のなかで身近だからこそ軽く考えてしまいますが、とても奥が深い話題ですね。

食事介助の他にも、ゆとりを持った入浴介助の話題や自虐的な利用者さんへの対応など、話題は多岐にわたって繰り広げられました。

座談会へ参加させてもらって、ひと昔前のケアや大規模施設がどうこうではなく、しっかりと養成校で学ばれた若い新人介護福祉士の方々のお話を伺い、気づきや倫理感の高さに驚きました。自分自身も時代に合わせアップデートしていき、これまで以上の別の正しさがあるように感じる学び多い座談会となりました。

(美作地区：広報・神田)



KAiGO[®] PRiDE @OKAYAMA

を開催しました！

厚生労働省のパイロットプログラムとして、昨年より本格始動した介護の魅力発掘プロジェクトKAiGO PRiDEが@OKAYAMAポर्टレート写真展&トークショーとなって、5月29日(日)岡山コンベンションセンターにて開催されました。

写真展示とともに、日本介護福祉士会前会長で現在は「KAiGO PRiDE」理事の石本淳也氏、岡山県社会福祉士会会長の今岡清廣氏と当会会長の安達悦子の3名による介護・福祉の魅力を岡山から発信するトークショーを行いました。

石本氏からは「KAiGO PRiDE」プロジェクトについて紹介がありました。

『「KAiGO PRiDE」代表理事のマンジョット・ベディ氏は10年前に熊本県の知り合いの介護施設で介護福祉士と出会い、『ものすごくカッコいい仕事なのに、一般にはそれが伝わっていない。ブランディングが必要だと思い、作品にして介護の真実の力を発信したい!』と考えました。その考えに私も共感し、ともに「KAiGO PRiDE」のプロモーションムービーを制作し発表しました。マンジョット氏はこうも言っています。『介護はどの仕事よりもクリエイティブな仕事です。誰もが自分らしく安心して暮らせる社会を作るのは簡単ではないからこそ、もっと介護福祉士の皆さんは自分をリスペクトしてほしい』と』

トークショーではそれぞれ、
「介護の業界に今必要なことは、介護従事者自身が介護の魅力をポジティブに発信すること、そして介護の仕事に自信を持つことだ。」

「誰もが年をとる中で、介護は自分自身の問題でもあり、目を向けるべき社会の課題。将来、誰もが自分らしく生きていく為、今こそ取り組むべき課題である」

と語られ、有意義なトークショーとなりました。



「KAiGO PRiDE」VISION

誰もが自分らしく安心して暮らせる社会

自分らしく安心して年をとれること。それは、高齢であることや支援が必要なことを理由になにかを我慢したり諦めたりしなくていいということ。介護をする人もされる人も、誰もが自分らしく安心して暮らせる社会を「介護」の持つ力を拡張・強化することで実現します。

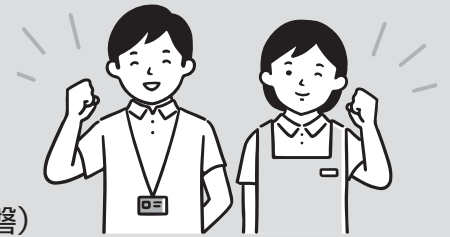
(「KAiGO PRiDE」ホームページより)

第7回 おかやま介護グランプリ2022 本選出場チーム決定！

2022年11月11日（金）、きらめきプラザ（岡山市北区南方2-13-1）にて、「第7回おかやま介護グランプリ2022」を開催いたします。本年6月から出場チームを募集し、申し込みのあった12チームから予選を勝ち抜いた5チームが、いよいよ本選となる大会当日を迎えます。

本選出場チーム（予選エントリー順）

- ・チーム賀陽荘 和の家
- ・チーム社会福祉法人藤花会 特別養護老人ホームせとうち
- ・チーム吉備路 社会福祉法人 吉備路の会
- ・チーム吉備高原賀陽荘
- ・チームM・Aグレートチーム（特別養護老人ホームまごころの里赤磐）



※実技内容を審査員（主任技術指導者、介護福祉士国家試験実地試験委員有資格者）が審査します。

※入賞チームにはトロフィー、賞状などをお渡しします。

※本選の様子は動画を撮影しWEB上で後日公開いたします。

このグランプリでは、現場での介護技術を広く公開することで、介護の仕事への理解促進を図ることを目的に開催いたします。参加した選手・ご来場いただいた皆様とともに、介護とは何か考え、介護を支える土壌を育み、また、参加者の自己研鑽や理解を高めること、チームで出場することで介護職同士の連帯感を高めることを目的としています。

今大会はコロナ禍でもできる開催方法として、昨年度と同様に事前に提示した課題に即した介助の様子を動画で投稿し、予選会を行いました。

どのチームも、素晴らしい技術を見せていただき、介護の深みを実感すると共に、日々我々が行っている介護についての魅力を再発見できたような気がしました。

甲乙つけ難い予選チームの中から、厳正な審査により5チームを選ぶことができました。

本選に出場されるチームにおかれましては、予選で惜しくも涙を呑んだチームの分まで、優勝を目指して健闘していただきたいと思います。大変期待しております。

なお、今年度は予選審査において、部門を一般と学生の2部門で予定しておりましたが、学生部門の応募がなかった為、一般部門だけで開催することとなりました。

（大会実行委員長 齋藤）

地区活動 地区研修

紹介します！



東備地区

地区活動

介護入門教室を開催いたしました。

備前市浦伊部団地内での介護予防サロン「わかば会」で、介護入門教室を開催いたしました。

「わかば会」は、高齢者の「閉じこもり予防」と「居場所づくり」を目標に、月2回総勢14名で活動されている7年目を迎えるサロンです。

7年目のスタートとなる記念行事として、今回は「介護サービスや介護施設について」をテーマに、知っておくと安心できる介護保険制度や現在の日本の高齢社会の状況等について、お話をさせていただきました。講師の昔話を交えながら、「介護予防が必要なこと、困ったらどうするか、施設の違いなど」クイズ形式でお話をさせていただきました。皆さん、楽しそうにクイズに挑戦されながらも、やはり「お金のことが心配」と語られました。

備前市の地場産業を牽引してこられた方々が、居を構えられたこの団地。いつも思い出話に花が咲くそうです。身近な介護の話を語り合いながら、共に歩んでこられた仲間が集い、いつまでもお元気で過ごされることを願って、皆さんと記念撮影をしました。

(東備地区：岩見、倉敷地区：藤原)



▶▶▶ 今後の研修・イベント ◀◀◀

11月5日 (土)	おかやま総合・福祉介護フェア 今年も「介護フェア」が開催されます。 詳しくは「おかやま総合福祉・介護フェス2022」でチェック！ 参加費無料です。事前予約の必要なコーナーもありますので、お気をつけください。 ご参加お待ちしております。
11月11日 (金)	第7回おかやま介護グランプリ2022
11月25日 (金)	一般研修「ポジショニング」
11月26日 (土)	美作地区研修「腰痛予防とノーリフティング研修」
12月7日 (水)	介護職種の技能実習指導員講習
12月16日 (金)	第14回介護実践研究発表会 (WEB開催)

詳しくはホームページをご覧ください。

お知らせ

仕事の悩みなんでも相談

福祉・介護職員対象で職場の人間関係や仕事の事、働く上での不安等の悩みに関する相談を受け付けています。お気軽にご相談ください。
(※相談無料・秘密厳守)

開催日 毎月第2木曜日 13:00~16:00

【令和4年度相談日】

5月12日	6月9日	7月14日	8月10日
9月8日	10月13日	11月10日	12月8日
1月12日	2月9日	3月23日 (第4木曜日)	

※令和5年3月のみ第4木曜日となっております。

相談方法 来所または電話相談

電話：086-225-8341

来所：きらめきプラザ7階 岡山県介護福祉士会



※事前に電話またはメールにて予約をお願いします。

事前申込メールアドレス：okayama-kaigo@woody.ocn.ne.jp

事前申込電話番号：086-222-3125 (岡山県介護福祉士会事務局)

介護なんでも相談

介護についてのお困り事、悩み事はありませんか？

ちょっとした疑問でも結構です。

介護している人、介護されている人、介護の仕事を考えている人、介護に関する疑問、不安やお悩みにお答えします。
(※相談無料・秘密厳守)



開催日	毎週火曜日と金曜日 10:00~12:00
相談方法	電話相談のみ (こちらの相談は予約不要です)
電話	086-225-8341



みんなの広場

ほっとステーション



OiBokkeShi演劇を観てきました！

ニュースにも出ていたのでご存じの方もおられると思いますが、7月17日（日）に奈義町文化センターで行われた「老いと演劇」 OiBokkeShiの公演『エキストラの宴』（俳優・介護福祉士の菅原直樹さん作・演出）を観てきました。



(提供：OiBokkeShi)

奈義町人権教育講演会特別演劇公演でもあって、あいにくの天気にも関わらず大盛況の満員でした。とても面白く勉強にもなったので投稿させて下さい。

いつも通りに岡田忠雄（おかじい）さんも存在感があって健在でしたが、今回は劇団主催のワークショップに参加した演劇経験のない奈義町の方々が、稽古を続けて出来上がった作品でした。

3月に開催された創作過程を公開し作品を練り上げていく「ワーク・イン・プログレス」の様子をテレビで拝見していたので、本公演が待ち遠しく感じました。出演者の多くは町内の人々で老若男女、障害のある人や認知症と共に生きる人、介護する人が、個性を輝かせて舞台上で演じ合っていました。

認知症の世界観を正すのではなく演技で受け止め受容するといった、これまでのテーマにとどまらずコミュニケーションが苦手な青年や脳性麻痺で身体が思うように動かない女性が迫真の演技をされていました。劇中で「ウェル・ビーイング (well-being)」を目指そうと話されており、

この先とても大事なSDGsやジェンダー平等が求められていると同時に、より積極的に人権を尊重し自己実現を目指す社会・健康や幸福は、介護に通じて重要であると感じました。次回公演への期待が高まる良い休日となりました。

(ペンネーム：かんじい)



ほっとステーションへの投稿をお待ちしています

あなたの職場の様子や利用者さんとの日々のやりとりを教えてください。同じ“介護”で働く皆さんが共有できる、そんな情報をお待ちしています。



編集担当

岡山県介護福祉士会
広報委員会

- | | |
|--------|-------|
| 神田 統夫 | 河崎 崇史 |
| 早見 潤一 | 田中美保子 |
| 内藤 佑弥 | 岡本 奈々 |
| 山本 良真 | 古山 喬成 |
| 山室 竜太郎 | 西本 光男 |
| 磯田 明枝 | 大塚乃生子 |
| 森岡 剛士 | 岩本 侑太 |
| 高橋 明美 | |